



和 ～心をつなぐ～

令和6年11月1日
第5号



勇 気

今回は「勇気とは何か」について考えてもらいました。【※ 裏面：放送内容】

☆ 1年生 ☆

- 勇気とはチャレンジすることだと思います。何事にも勇気を出して前向きに進んでいきたい。
- 「ボクニタヨルナ ヨワムシ」を聞いた時、勇気が出ないのではなく、甘えているんだと気づかされました。甘えているだけでは自分のためにならないので、自分を信じて立ち向かっていきたい。
- 勇気とは決心することだと思います。たとえ怖くても勇気をもって行動していきたい。
- 自分を信じるのが大切だと思った。勇気はお金で買えないから、自分に自信をもって勇気ある行動をしていきたい。
- 勇気をもって行動するには、その前の行動が関わってくると思う。好奇心だけ、人一倍努力していないと、その行動に勇気もてるとは限らないので、根拠ある勇気もちたいと思う。

☆ 2年生 ☆

- 僕の考える勇気は、覚悟を決め、何かに挑戦すること。これこそが勇気だと思う。
- 物や人に頼って生まれた勇気は本当の勇気じゃないから、その時はいいかもしれないけど、後々、後悔すると思う。
- 勇気をもって行動するには、自分の考えが一番大事だと思います。
- 勇気をもって行動するするためには、自分の自信が必要だと思います。勇気をもてるようになるためには、マイナス思考で物事をとらえるのではなく、失敗もたくさん経験すれば良いと思いました。
- 勇気とは誰かに頼るのものでなく、自分で作り出すものであると考えました。

☆ 3年生 ☆

- 勇気を得るために、お金をかけてプラスにしようとする何かに期待するのはよくないと思った。勇気はお金で買うものでなく、自分で勇気をもって行動することだと思います。
- 人に頼っても勇気を得られないと思いました。いざというときに勇気を出せるようになりたい。
- 勇気はその人の思いで買ったりすることはできない。ということを改めて思いました。これから様々なことに、失敗してもいい覚悟で挑戦してみたいと思いました。
- 失敗を恐れて勇気を出せないときがあるので、勇気を出したいときは成功する未来を思い描けばいいと思いました。
- 勇気がなくて損をしたことが何回かあります。改めて勇気をもつことは難しいと思った。

勇気というものを金で買えるはずがない。勇気を物体として、形でとらえられるはずがない。初めはそう思った。勇気というものは金などでは買えない、尊いものだと思っていたからだ。

あれは夏休みのある日だった。親せきの人に自動車で大洗へ連れて行ってもらったとき、帰りに水戸のあるデパートへ買い物に行った。買い物がすんでから、少し時間があつたので、ぼくは店内をぶらぶらしていた。そのとき、信じられないようなものが売られているのを見たのだ。缶入りの勇気、つまり、『勇気のカンヅメ』が売られていたのである。

「まさか！」僕は半信半疑だった。

だが、そうは思っても好奇心からそこへ足を運ばずにいられなかった。

そこには、そう書いてあつた。(勇気がたつたの50円で?)と手に取ってみた。軽い。空き缶のようだった。それを手にしながら、いろいろな思いが頭の中を交錯した。この中には一体何が入っているのだろうか。ひょっとしたら、本当に勇気が入っているのではないだろうか。これを買って缶を開ければ、人にはない自分だけの勇気が得られるのではないだろうか。最初はばかばかしく思っていたその『勇気のカンヅメ』を2個買った。欲張りな僕は人一倍の勇気が欲しかったのである。

帰りの自動車の中で、ぼんやりしている僕の頭の中にいろいろな思いがうかんできた。勇気がなかったために損をしたこと、恥ずかしい思いをしたこと、他人に対して劣等感をもったことなどがうかんできた。どれもこれも、思い切って言ってしまえば、思い切ってやってみれば、というような、思い切りがあれば解決されたことばかりだった。(思い切りということが勇気なのかもしれない。)と自分なりに勇気というものを解釈してみた。今思えば、僕は心のどこかで本気で『勇気のカンヅメ』にひそかな期待をいただいていたのだろう。

家に帰るとすぐ、僕は部屋にひとりであることを確かめて、『勇気のカンヅメ』を開けた。初めから勇気そのものの本質的なものが入っているなどとは思ってなかった。だが、だんだんひょっとしたら、勇気とは・・・とか、勇気を得るには・・・とかいうものぐらい入っているだろう、とにかく僕にとってプラスになる何かが入っているだろうと期待するようになっていたのだ。

ところが缶詰を開けてみて、
頭をガンと殴られたような思いがした。

缶詰の中には何も入っていなかった。
ただ、缶の底に、

『ボクニタヨルナ、ヨワムシ』
とだけ書かれてあつたのである。



★ 保護者の方からの感想 ★ 9月「命の大切さ」

- ・ 病気でしんどい時にこそ他人に優しくできるのは、真の優しさであると思う。偏見や好奇心で人を見ず、常に思いやりをもって、自分より周りのことを考えて行動できる人になりたいです。
- ・ 世の中には、同じ年齢でも様々な生き方をしている人がいます。境遇は違えども何かに頑張っていたり、夢に向かって諦めずに戦っていたりします。他人を軽んじて見ず、命の重さは皆平等であることを前提に、輝く人生を送ってほしいと思います。
- ・ 自身が究極の辛さや悲しみに陥った時に他人を敬い優しい心をもって接することのできる人こそが「芯の強さを持った人」だと思う。思いやりをもった器の広い人間になりたいし、子どもにもそうなってほしいと願っています。

(紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。)